

③行政に影響されない(頼らない地域経営のあり方)

- ・自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開

○目指す姿 <<地域活動が楽しくなる財源確保>>

- 地域資源の活用や既存事業の工夫により、無理のない範囲で一定の財源確保ができています。(受託事業(広報配布事業)など)
- 無理のない適度な会費の負担で地域が運営されている状態(身の丈に合った組織運営)。
- 地域活動の持続性を高めるために、目的をもって自主財源が確保されている状態。
- 市や県、その他の団体等の募集する補助金や助成金の申請により、自主財源を確保できている状態。
- 地域の団体や企業との連携・協力(資金援助・現物支給・場所提供等)により自主財源が確保できている状態。
- 市民活動センターの中間支援により、補助申請等の仕方を学べ、補助金等の活用できている状態。

【対策】

- ・市からの選択可能なメニューを追加する。希望する地域のみ受託し、財源確保を目指す。
- ・補助金や助成金などの情報提供や補助申請の仕方などの研修により知識を会得する。
- ・クラウドファンディングの活用
- ・ふるさと納税の仕組みで団体指定や地域指定を設け、ふるさと納税を配分する。
- ・地域資源の活用、開発により収入源となるものの販売や利用収入を得る。 など

